

社会福祉法人祥和会

## 2023年(令和5年)度事業報告

地域密着型特別養護老人ホーム五本松の家  
ショートステイ五本松の家  
デイサービスセンター五本松の家

【施設の概要・職員配置】※2024年3月31日現在

事業所名	定員	職員数(全体計:56人)	摘要
地域密着型特別養護老人ホーム五本松の家	29人	施設長、介護職員18人 看護師、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、調理員	10人×2ユニット・ 9人×1ユニット
ショートステイ五本松の家(短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護)	20人	管理者、介護職員12人 看護師、生活相談員、管理栄養士、機能訓練指導員	10人×2ユニット 管理者、機能訓練指導員、生活相談員、管理栄養士、調理員は、特養と兼務
デイサービス五本松の家(通所介護・介護予防通所介護)	25人	管理者(作業療法士)、 介護職員5人 生活相談員、看護師、 管理栄養士等	生活相談員は介護職員1人兼務、管理栄養士、調理員特養兼務

職員配置について、中途の退職等があったが随時補充、さらに今年度は、ダブルワークの非常勤スタッフが増加した。

【事業区分別事業報告】

2023年度は、新型コロナウイルス感染症が、5類感染症となり、面会制限や、外出制限、集団のイベントなどを修正していきました。

例年行っていた施設内行事は、入居者、利用者のニーズに応じて、感染症対策を行い、可能な限り、ユニットや会場を広くとり開催しました。

家族面会も、予約制で人数制限を行いながら、居室にて行いました。あわせて、SNS(ホームページ、LINE、Instagram)を活用して日常の様子をこまめに発信した。

また、職員研修や各種委員会については、通常通り、しっかりと開催をしました。

1)地域密着型特別養護老人ホーム五本松の家

【2023年度目標】

〈目標〉

1) 2022年度に引き続き、入居者やご家族の安心・安全の確保、健康管理に重点を置き、感染症対策の徹底、職員の知識、技術の向上に努める。入居者の高齢化、重介護化もあり、看取りケアの知識を深め、家族とともに入居者の看取りを支援する。

2)入居者の入院を毎月延べ人数の1割にとどめ、退居から新規入居までの日数を7日以内とする。

2023年度中の利用率は、98.8%、退居者は7人、その内訳は、施設内での看取り3人、医療機関での死亡3人、入院継続1人であった。退居から入居までの日数は、最長で1日、最長で5日、平均5.1日。新規入居者は7人、入居前の内訳は、在宅6人(ショートステイ)、グループホーム1人となっている。

2023年度はさまざまな制限を解除しながら、行事の全体開催は少なく、各ユニットやフロアを積極的に行い、ストレス改善等を検討し、開催した。

※各行事は、特養・ショートステイ・デイサービスともに開催。

4月	花見ドライブ、誕生日会 ユニット:出前レクリエーション(寿司) 鯉のぼり製作、おやつレクリエーション(はったい粉)、お花見 お茶会
5月	端午の節句、誕生日会 水害訓練 ユニット:出前レクリエーション、おやつレクリエーション(抹茶プリン、おはぎ づくり) デイカフェ(新茶)鯉のぼり製作、薔薇鑑賞会、デイサービス:薔薇鑑賞外出
6月	6周年記念パーティ 出前レクリエーションテルテル坊主製作 ユニット:おやつレクリエーション(バナナ&マンゴースムージー、あんみつ) お茶会、 新型コロナウイルスワクチン予防接種
7月	七夕、消防訓練 ユニット:おやつレクリエーション(フルーツポンチ作り) 出前レクリエーションショートステイ・特養(一部):出前を取って気分転換 水分週間(ジュース) 新型コロナウイルスワクチン予防接種 水害避難訓練
8月	夏祭り、出前レクリエーション ユニット:ダンスレクリエーション、おやつレクリエーション(冷やしぜんざい 作り、すいか割り) デイカフェ(かき氷) 誠之太鼓(福山東ライオンズクラブ)
9月	敬老会 ユニット:おやつレクリエーション(おはぎ作り) デイサービスお月見団子作り、おはぎ作り 水分週間(ジュース) 出前レクリエーションデイサービス:お月見会 折り紙制作(団子)
10月	ハロウィンカフェ、スイートポテト 消防避難訓練 地域の祭り見学
11月	秋の壁画作り、カレンダー作り かぼちゃプリン、スイートポテト、フルーチェ作り インフルエンザ予防接種
12月	リスマスケーキ作り しめ縄作り、忘年会 もちつき
1月	お正月行事、初詣、とんどへ参加 福笑い、絵馬づくり

	チョコフォンデュ作り
2月	節分行事・バレンタイン企画 豆まき、プリン、チョコパイ作り、福笑い
3月	ひな祭り、春と桜の工作、抹茶どら焼き、フルーチェ作り お花見ドライブ ボランティアによる音楽イベント、
その他イベント	出前レクリエーション(寿司やお弁当など) 美容院(月2回)外出散歩(随時)

## 2)ショートステイ五本松の家

### 〈目標〉

- 1)利用希望されている方の思いにできる限りこたえられるよう、平素から居宅介護支援事業所、利用者ご家族との連携を密にとり、稼働率 88%以上を保つ。
- 2)在宅での生活が非常に困難な方の受け入れを積極的に行う。  
(要介護度の高い方〈要介護3～5〉の受け入れを重視する。)

2023年度の利用率は、91.2%、年度内利用者実人数は54人、その内訳は、男性22人、女性32人となっている。

2024年3月31日現在の利用者の平均年齢は、男性79.4歳、女性83.1歳、全体では82.1歳となっている。

月季節行事、おやつレクリエーションや作業療法など、様々な行事を取り入れ、さらにユニットごとに集団体操を実施し、食事前には口腔体操を実施し、自立支援の取り組みを実施。

難病や、歩行制限がある方、在宅酸素を使用している利用者や重度の認知症の利用者など、医療依存度が高い利用者に対しても、事前面談を行い、情報収集し、さらに受け入れ前に職員の勉強会を行うなど、積極的に受け入れるための取り組みを行った。新型コロナウイルス感染症への対応として、5 類感染症となり、外出制限を削除し、家族との交流もしっかりと行い、体調不良時に早期に抗原検査の実施を徹底し、早期発見、早期対応を優先とした。

新型コロナウイルス感染症蔓延機関が長くなったため、長期利用となった人も多く、入所者のストレスも高く、毎月の行事をしっかりと企画し、家族やケアマネジャー向けの広報誌「ほっと五本松の家通信」にて施設内の様子を発信した。

## 3)デイサービス五本松の家

2023年度のデイサービスセンター五本松の家の目標として、

- ①デイサービスが、利用者にとって日常生活を過ごす一部となり、本人と関わる周囲の関係者への協力も積極的に行う。
- ②新規利用者の獲得【年間10名以上:2022年度6名獲得】

### ③2023 年度末の最終稼働率 68%以上の確保【2022 年度最高稼働率 67.7%】

2023 年度について、デイサービス全体として、利用者周囲の関係者へは電話や連絡帳などの手段や直接話す場を設けことで、利用者本人が過ごしやすい環境を提供できた。特に、医療的なケアが必要な利用者が増加してきたこともあり、家族、ケアマネジャー、訪問看護ステーションへのコミュニケーション方法として、電話やメール、LINE や医療介護現場コミュニケーションツール(MCS)を活用するなど 2022 年度から大幅に増加する形であった。

運営状況として、総売上前年度 39,687,547 円から今年度 43,168,240 円と 3,480,693 円の増収がみられており、2023 年 8 月より、新しく個別機能訓練加算 I イ、科学的介護推進体制加算の算定を開始した。利用延人数も 4,769 名から 4,971 名と202名の増加となり良い結果がみられた。合わせて年間新規獲得数についても 14 名獲得ができ、前年度から(+8 名)と目標に対して、達成することができた。

しかしながら、年度末最終稼働率をみると63.9%で着地となり目標数値である 68%以上を達成した月は、10 月のみとなり目標稼働率の達成に至らなかった。

デイサービスでの主な活動内容:

集団体操、脳トレ、カラオケ、季節・時期に応じたレクリエーションや作品作り、物理療法(低周波治療器、ホットパック)、ウォーターベッド、個別機能訓練(有資格者)、その他

#### 【法人、職員、地域交流スペース等行事報告】

4月	職員研修、接遇研修 職員健診(全職員対象)
5月	水害避難訓練 町内一斉清掃参加 監事監査 BLS研修(外部講師) 消防避難訓練
6月	理事会 評議員会
7月	水害避難訓練 BLS研修(外部講師) 新型コロナウイルスワクチン 消防避難訓練 尾道福祉専門学校実習
8月	夏祭り 消防点検 尾道福祉専門学校実習
9月	敬老会 消防設備点検

9月	東京大学見学 スナック五本松 浴槽内レジオネラ属菌・大腸菌群検査 貯水槽清掃 尾道福祉専門学校実習
10月	水質検査 特養入居判定会議 職員健診(新入職員・夜勤者) 消防訓練 建築設備建物検査 消防設備点検 かわまち広場トライアスロンボランティア
11月	福山市介護保険課 運営指導 館内清掃 インフルエンザ予防接種 防避難訓練 運営推進会議 五本松町内会講演 通所ケア研究会・施設訪問(30人来所)
12月	看護協会による感染症研修 クリスマス会 スナック五本松 社会福祉法人忘年会
1月	介護の基礎基本・介護の生産性向上セミナー
2月	介護の基礎基本・介護の生産性向上セミナー 運営推進会議
3月	特養入居判定会議 消防避難訓練 新型コロナウイルス感染症 BCP シミュレーション 地震・津波対応 BCP シミュレーション評議員会

#### 【委員会・会議報告】

会議・委員会名	頻度・実施	参加者等
経営・運営会議	週1回・月曜日	理事長・理事・施設長・事務
運営推進会議	6回/年	地域運営推進委員、地域包括支援センター、理事、施設長、介護支援専門員、生活相談員、介護主任等
リーダー会議	月2回	施設長、主任・管理者・各リーダー等
安全衛生会議	月1回	産業医、施設長、主任・管理者・各リーダー、各専門職等
ユニット、部門ミーティング	月1回	各部門スタッフ
サブリーダー会議	月1回	各部署サブリーダー、主任、施設長
ケアプランミーティング	必要時	施設長、主任・介護支援専門員、生活相談員、管理栄養士、機能訓練指導員、ユ

		ニットスタッフ、看護師等
デイサービス・ショートステイミーティング	月2回	デイ、ショートステイスタッフ 看護師、生活相談員等
事故防止委員会	月1回	担当委員(西原・各部署代表)
感染防止委員会	月1回	担当委員(石井・各部署代表)
身体拘束廃止委員会	月1回	担当委員(城平・各部署代表)
虐待防止委員会	月1回	担当委員(城平・各部署代表)
栄養・褥瘡防止委員会	月1回	担当委員(新山・森川各部署代表)
企画委員会	2か月に1回	担当委員(鳥谷部・各部署代表)
研修委員会	2か月に1回	担当委員(山野・各部署代表)
自立支援委員会	月1回	担当委員(正明・各部署代表)
防災委員会	月2回	担当委員(東谷・各部署代表)
排泄委員会	2か月に1回	担当委員(正明・各部署代表)

### ■法人本部 事業報告

【監事監査】5月22日

【理事会】6月5日、6月21日、12月7日、3月14日

【評議員会】6月21日、3月26日

【運営推進会議】11月より再開。11月10日、2月21日

【特養入所判定会議】10月20日、3月7日に実施

### ■地域交流スペース・法人事業報告

地域交流スペースでは、随時対応にて「暮らしの保健室ふくまち」の相談事業を行い、毎週金曜日(10時半～11時半)には地域の方々、入居者家族などを対象に「おしゃべり体操教室」を行った。(地域包括支援センター箕島と連携)

また「暮らしの保健室ふくまち」では感染状態をみながら、安田女子大学、三原の訪問看護師、東京大学学生などの見学を受け入れ、9月、12月には、「スナック五本松」を開催した。

### ■職員に関すること

今年度は、職員交流会を2か月に1回開催、定期的な職員交流会を開催、12月には社会福祉法人祥和会役員の方々も一緒に忘年会を開催することができた。

地域活動への参加も積極的に行い、町内一斉清掃の溝掃除への参加、集会所の清掃、かわまちトライアスロンボランティア等への参加も行った。

感染症対策としては、新型コロナウイルス感染症に関して、継続して、月に4回、職員へのPCR検査(広島県実施)等を積極的に行い、感染予防管理、早期発見対策を徹底した。職員や入居者の発熱や体調不良等の対応も、協力病院と連携して早期対応を行った。

2023年度は、新型コロナウイルス感染症は、職員20名、入居者7名の陽性があった。その中でも2月には、一度に職員・入居者あわせて18名の感染が認められ、クラスター届

け出を行った。うち入居者 1 名は高齢でもあり、脳神経センター大田記念病院に入院をお願いする事となったが、3月8日には無事退院されている。保健所には、3月3日収束報告を行った。

インフルエンザに関しても、職員3名、入居者1名の感染が見られたが、施設内療養にて対応することができた。

## ■2023年度まとめ

2023年度は、新型コロナウイルス感染症への対策、対応、予防、そして発症時の対応など、施設全体として様々な対応を継続していったが、5類感染症への移行とともに、家族の面会制限の解除、ショートステイの短期利用の推奨、利用者、入居者の外出制限の解除、会議や研修会の開催制限の解除と参加勧奨、行事の積極的参加と実施を行っていった。

特に家族の面会は、他の施設を利用している方々からの相談も多く、ショートステイの新規利用にもつながった。

また、職員の研修もオンラインから集合研修へと少しずつ増え、学ぶモチベーションへも発展していったと考えられる。あわせて、広島県介護福祉士会会長の吉岡先生の集合研修は、介護の基本と介護の生産性向上というテーマで、自身の介護や業務を振り返る機会となった。

継続した課題も多く残ったが、事業ごとの広報活動や、スタッフ主導のイベントやSNSの活用など、さらに施設全体で模索し取り組む姿勢が確立できた。

ボランティアなどの行事やイベントも実施し、今までできなかった大きなイベントもスタッフ主導で実施した。

また、施設での看取りも定着し、スタッフ全員で看取りに取りくんでいく体制づくりができ、あわせて、看取り後の、「デスカンファレンス」の実施を行い、ご家族の思いを直接的に聞き、看取りケアにかかわることの重要性や、役割を再認識する機会となった。

家族の気持ちの中に最期に家に連れて帰ってあげたいという思いを実現するために、かかわるスタッフ全員で準備、うちあわせを行い、ご家族とともに自宅へ帰ることも実施することができた。

とくに今年度からは、看取りだけでなく、施設へ入ってから家族がしてあげたいこと、本人がやりのこしたことを積極的に支援し、実施していくという計画を、本人家族とともに話し合い、一人ずつ計画的に実行している。

職員交流も少しずつ拡大し、2か月に1回の職員交流会も再開し、職員同士の交流とモチベーションアップの取り組みを継続していきたい。

2024 年度は、引き続き感染症対策も意識、継続しながらも、できる限り日常を大切にさらに、入居者、利用者主体のサービスの工夫を検討し、デイサービス、ショートステイの拡充、利用者主体の運営、広報活動を実施して行く。